

ジョージア政治・経済 主な出来事

【2016年10月31日～2016年11月6日】

[当地報道をもとに作成]

平成28年11月8日

在ジョージア大使館

1. アブハジア・南オセチア

【アブハジア】

▼露国家院が露・アブハジア「軍統合グループ」の設置に関する合意を批准(11月2日)

・2015年11月に結ばれた露・アブハジアの「軍統合グループ」の設置に関する合意を露国家院が批准。

・ジョージア外務省は、批准は「アブハジア・ツヒンヴァリ地域の事実上の不法な併合プロセスの一環」であり、安全保障に関する現地の状況を一層困難なものにし、地域全体の安定を著しく脅かすとして、ロシアの「這い寄る併合」政策の継続を批判する声明を発表。

▼アブハジア「外相」のモスクワ訪問(11月3日)

・コヴェ「アブハジア共和国外相」が10月の就任後モスクワを初めて訪問し、ラヴロフ露外相と会談。露外務省によれば、会談で両者は露・アブハジア関係および地域的・国際的協力について詳しく議論した。「ラ」露外相は、「我々は同盟国である。これはアブハジアの平和的な発展にとって最も重要な条件である」と強調した。また、ロシアは社会・経済分野での協力を重点を置いており、外交についても、国際場裡でのアブハジアに対する支援を強化する計画であると述べた。

2. 外 政

▼露国家院CIS・ユーラシア統合委員会委員長の発言(31日)

・カラシニコフ露国家院CIS・ユーラシア統合委員会委員長は、「ジョージアとの国会間協力の復活を促す用意がある」と発言。

▼インドネシアからの訪問団(31日)

・インドネシアの一部の州知事、投資調整庁など政府機関の関係者ら約30名の代表団が、ジョージアの経済・公共サービス分野の改革の調査を目的としてジョージアを訪問。ジャラガニア外務次官がナタリサ・インドネシア行政改革次官と会談。「ナ」次官はジョージアの公共サービスおよびビジネス環境の改善の経験に対するインドネシア政府の関心の高さを強調した。

▼セントクリストファー・ネイビス首相のジョージア訪問(11月3日)

・トビリシで開催されたOECDの税の透明性と情報交換に関するグローバルフォーラム第9回会議に出席するため、ハリス・セントクリストファー・ネイビス連邦首相がジョージアを訪問。マルグヴェラシヴィリ大統領およびクヴィリカシヴィリ首相と会談し、国連を含む国際場

裡における協力、両国の国会・商工会議所間の協力などを通じた二国間関係の発展について議論した。「ク」首相はジョージアの改革の経験を共有する用意を表明した。

▼首相とアルメニア大統領との会談(11月4日)

・バグラタシェン(アルメニア側)の新しい国境通過点の開設式が開催され、出席したクヴィリカシヴィリ首相とサルグシヤン・アルメニア大統領が会談。二国間の善隣関係および物流・エネルギーなど様々な分野における協力の今後の発展について議論した。2017年に着工するジョージア・アルメニア間の「友好の橋」の建設予定地を視察した。

▼露外務次官の発言(11月4日)

・カラシニコフ露外務次官は会見で、「ジョージア国民に対する査証自由化の検討に、近い将来に期待されているシェンゲン圏へのジョージア国民に対する査証自由化が影響を及ぼすか」との質問に対し、ロシアはジョージアに対する査証自由化を検討する可能性があるが、ジョージアはシェンゲン圏との査証自由化交渉と同様に障害を乗り越えねばならないと答えた。

・また、「カ」露外務次官は、「ジョージア側はロシアとの外交関係を復活させる準備が整っていない」と述べた。

▼首相と米副大統領との電話会談(11月4日)

・クヴィリカシヴィリ首相とバイデン米副大統領が電話会談を行ない、ジョージア・米間の戦略的パートナー関係および様々な分野における二国間協力について議論。「バ」米副大統領はジョージアで行なわれた民主的な国会選挙の重要性を指摘し、首相と与党に勝利を祝った。また、「バ」米副大統領は、アブハジアにおける軍の統合グループの設置に関する決定のロシアによる批准を非難し、ジョージアの主権・領土一体性に対する米国の支持を改めて確認した。

3. 内 政

▼共和党幹部の離党(11月1日)

・先週共和党からの離党を発表したウスパシヴィリ国会議長に続き、ヒダシェリ前国防相、フマラゼ国会法務委員会委員長、サクヴァレリゼ議員、エバノイゼ議員、シェルグラシヴィリ地域発展インフラ次官、ザカレイシヴィリ前和解・市民平等担当國務大臣が共和党からの離党を発表。

・同日、「ウ」国会議長は、国は新しい政治勢力を必要としているとして、2020年の国会選挙での政権交代を目指す新しい政治勢力をつくるため、共和党からの離党者を含む多くの関係者と協議を行なうと述べた。マルグヴェ

ラシヴィリ大統領との連携については否定。

▼ウグラヴァ前トビリシ市長の書簡(11月4日)

・服役中のウグラヴァ前トビリシ市長が所属する統一国民運動 (UNM) およびその支持者に宛てた公開書簡を発表。「オリガルヒによる国の支配を打破する」ため、UNM はより欧米的で民主的な政治組織になる必要があり、新たな党首を選挙で選ばねばならないと主張。また、「ウ」前トビリシ市長は、現在も党のトビリシ市支部長であるが、来年の地方選挙に向けて新たな支部長を選ぶため自ら辞任する用意があると述べている。

▼ジョージアの夢・民主ジョージアが国会議長・副議長候補者を決定(11月6日)

・与党「ジョージアの夢・民主ジョージア」(GDDG) が政治評議会会合を開催し、コバヒゼ GDDG 事務局長を国会議長の候補者に決定。また、チュゴシヴィリ元人権問題担当首相補佐官を第一副議長候補者に、ヴォルスキ議員およびジジグリ議員を副議長候補者に決定した。

4. 経 済

▼2016年9月の経済成長(31日)

・2016年9月の実質 GDP 成長率は前年同月比 1.5%。2016年1月～9月の実質 GDP 成長率の平均は前年同期比 2.6%。

▼2016年1月～10月の入国者数(11月2日)

・内務省が発表。2016年1月～10月の入国者数は5,406,188人、前年同期比 8.1%増。

・2016年10月の入国者数は527,157人、前年同月比 4.5%増。出身国別では多い順にアルメニア (前年同月比 2.1%減)、アゼルバイジャン (同 10.1%増)、トルコ (同 16.6%

減)、ロシア (同 13%増)、ウクライナ (同 15.8%増)、イラン (同 344.3%増)。ラトビア、リトアニア、イタリアなど EU 諸国、カザフスタン、ベラルーシ、イスラエル、アラブ首長国連邦、米国などからの入国者数が増加。

▼2016年10月のインフレ率(11月3日)

・国家統計局が速報値を発表。月間インフレ率は 0.5%。食料品・非アルコール飲料の価格が 0.7%、医療費が 2.0%上昇。

・年間インフレ率はマイナス 0.2%。アルコール飲料・タバコの価格が 10.9%上昇、輸送費が 6.7%低下。

・年間インフレ率がマイナスになったのは 2013年9月以降初めて。

▼EBRDの経済成長予測(11月4日)

・欧州復興開発銀行 (EBRD) は、最新の報告書で 2016年のジョージアの経済成長率を 3.4%、2017年の経済成長率を 3.9%と予測。ロシア、アルメニア、アゼルバイジャン、トルコを含む地域において最も高い経済成長を見込む。

▼通貨ラリの減価

・ドルに対するラリの減価が進み、11月5日には1ドル=2.4516 ラリをつけた。

・3日、ハドゥリ財務相は、マクロ経済指標が改善しているほか、11月末にアジア開発銀行が入金するなど政府会計にも肯定的な動きがあり、現在のラリの減価傾向は一時的なものであるとコメント。